

果実品質に優れ、果実が大きいイチゴ新品種「佐賀 i5 号」					
〔要約〕 <u>イチゴ</u> 「佐賀 i5 号」は、「あまおとめ」に「紅ほっぺ」を交配して育成した促成栽培用品種である。果実は光沢の強い鮮赤色で、「さがほのか」より糖度が高く、果皮が硬く、平均果重が大きい。					
佐賀県農業試験研究センター 野菜花き部・野菜育種研究担当			連絡先	0952-45-2143 nougyoushikensenta@pref.saga.lg.jp	
部会名	野菜	専門	育種	対象	イチゴ

[背景・ねらい]

佐賀県が育成した促成栽培用イチゴ品種「さがほのか」は、早生で連続出蕾性があり、果形の揃いが良く、適度な硬さで日持ち性に優れるなどの栽培し易さから、九州地方を中心に普及し、全国 2 位の栽培面積を占める。しかし、果皮が鮮赤色で、糖度が時期によりやや低く、果数が少なく早期収量が少ないことから、それらを改善した新品種が望まれている。そこで、果皮の色が濃く、食味が良好で、多収量を育種目標に、ポスト「さがほのか」となる新品種を育成する。

[成果の内容]

1. 「佐賀 i5 号」は、2009 年に愛媛県育成「あまおとめ」を種子親に、静岡県育成「紅ほっぺ」を花粉親として交配し、得られた実生から選抜した一季成り性の促成栽培品種である。
2. 草姿は立性で草勢は強く（表1）、草丈は「さがほのか」より高い。葉色は濃緑で、光沢は強い。芽数は「さがほのか」よりやや多い（データ省略）。
3. 花芽分化は「さがほのか」よりやや遅く（データ省略）、収穫開始は 12 月上旬である。腋花房の連続性出蕾性は「さがほのか」より劣る（表 2）。
4. 果実は「さがほのか」よりやや大きく、丸みを帯びた円錐形である。果皮は光沢のある鮮赤色で、果肉は淡赤色である。糖度は 9%を超え、適度な酸度があり、食味が優れる。果実硬度は「さがほのか」より硬い（図 1・2、表 1・2）。
5. 頂花房の花数は 20 花前後で（データ省略）、商品果数は「さがほのか」より少ない。1 果重は「さがほのか」より重く、年内収量および総収量は「さがほのか」よりやや多い（表 2）。

[成果の活用面・留意点]

1. 炭疽病抵抗性はないので、無病親株の確保、雨よけ育苗および薬剤防除を徹底する。
2. 「佐賀 i5 号」は、育苗中の体内窒素の極端な低下により、芯止まり株や腋花房の中休みを助長するので、適正な窒素レベルを維持する。
3. 品種登録出願公表中である（2016 年 5 月 31 日第 30804 号）。

[具体的なデータ]



図1 「佐賀i5号」の外観

表1 「佐賀i5号」の形質および特性^z

	草姿	果実の 大きさ	花の数	果実の形	果皮の色	果肉の色	果実の 成熟期
佐賀i5号	立性	大	中	円錐形	赤	淡赤	中
さがほのか	やや立性	やや大	やや少	円錐形	鮮紅	白	早

^z 農林水産省の植物種類別審査基準による

表2 「佐賀i5号」の収量および果実特性^z

品種名	収穫開始日(月/日)			総収量 (g/株)	商品果収量(g/株) ^y		商品 果数 (個/株)	平均 1果重 (g)	果皮色 ^x L*b*/a*	糖度 (Brix%)	果実硬度 (g/3mm φ)	
	頂花房	第1次 腋花房	第2次 腋花房		年内	全期 11~4月					果皮	果肉
佐賀i5号	12/4	2/13	3/22	756	146 (110)	708 (105)	38.8	19.6	22.1	9.5	108	46
さがほのか	11/29	1/17	3/6	707	133 (100)	674 (100)	45.5	15.5	26.9	8.6	78	34

^z 野菜育種および野菜栽培研究担当の2014~2015年の2か年の平均値

^y 7g以上の可販果

^x 数値の小さい方が濃赤

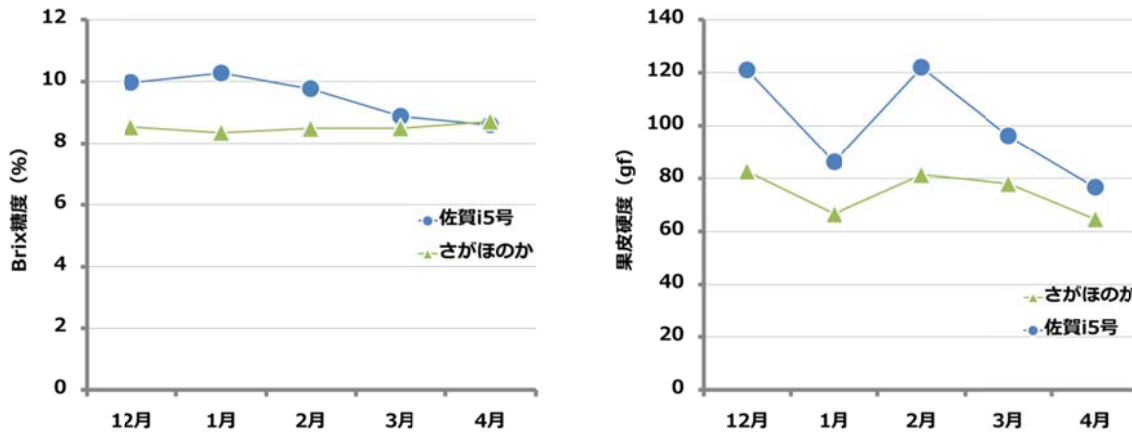


図2 Brix糖度および果皮硬度の推移^z

^z 2014~2015年の2か年の平均値

[その他]

研究課題名：いちご次世代品種緊急開発プロジェクト

予算区分：県単

研究期間：2010~2016年度

研究担当者：岡和彦、中島寿亀、西美友紀、緒方千佳、伊東寛史、木下剛仁、大坪竜太、中山裕介、石橋泰之、小川浩樹、中尾政明